

## 1 園訓

誠実 感謝

## 2 運営理念

日本国憲法、児童福祉に関わる法律、児童の権利条約を遵守し、自主・自立の精神と豊かな人間愛を身につけた児童を育成する。

また、地域社会の負託と信頼にこたえ、「児童の最善の利益の保障」を念頭に、常に創造と工夫に満ちた業務を心がける。

## 3 基本方針

- (1)年齢や発達段階、特性に合わせた自立支援の充実を図る。
- (2)家族再統合のため、トータルファミリーサポートを行う。
- (3)児童の権利擁護を推進し、一人ひとりの児童の個性を尊重した養育に努める。
- (4)職員の専門性や個性を活かしたチーム支援に取り組む。
- (5)被虐待児童に対する専門的なケアを行う。
- (6)被措置児童等虐待防止の取り組みを行う。
- (7)地域開放及び情報開示の推進に努める。

## 4 平成28年度重点目標

### (1)施設の安定的運営

平成28年度も前年度と同じく定員どおりの運営となったが、年度末には高校を卒業し社会に巣立っていく者、学園での生活が安定し受け入れる家庭も環境が整い家族再統合が可能になった者など十数名が園を離れていく状況にある。園児の最善の利益

を保証するためにも安定した施設運営は必要不可欠なものであり、定員の確保は喫緊の課題と強く認識し、引き続き安心して措置していただける施設となるよう取り組みを強化する。

## (2)学習指導の強化

不適切な環境で養育されてきた多くの入所児童は学習習慣の欠如が散見され、学力の遅滞は顕著である。このため、通塾や学習ボランティア等を活用し基礎学力の向上に重点を置いて学習指導に当たってきたところである。社会自立や家庭再統合に際し低学力解消は最重要課題の一つであり、新たに学力指導システムの構築に取り組みたい。

- ・ 学習室など環境調整(整備)の取り組み
- ・ 学校との連携を図り課題のチェックリストを作成し、つまずきを早期に発見し対応
- ・ 心理判定所見を見直し、個別学習計画を作成

## (3)生(性)教育の取り組みの促進

不適切な養育環境で生活していた子どもたちは、自己肯定感が低く「自分を大切にできない」ことから安定した生活ができない子が多い。これまでも自己肯定感を向上させる取り組みを行ってきたが、改めて生活の中での実践について見直しを行う。

また、ネット社会の発展に伴いますますオープン化する性問題に真正面からの取り組み強化を図る。このため、児童相談所、児童養護施設、学校、警察（サポートセンター）等で構成される「下関児童福祉施設等性（生）教育研究会」（平成26年度設置）に引き続き参加し、性教育に関する情報交換や関係機関が共同して性問題の解決を目指すとともに、学園の性教育マニュアルの策定の完成に努める。

## 5 年間主要行事計画

4月 班替え お花見 入学を祝う会

5月 小学校運動会 アイリンピック

6月

7月 七夕 夏まつり

8月 馬関祭り 夏季スポーツ大会

9月 運動会(各学校)

10月

11月 七五三 貴船連合運動会

12月 餅つき

1月 年賀式

2月 節分 冬季スポーツ大会

3月 ひな祭り 卒園生を送る会

その他 年間6回 小グループ活動

毎月 児童自治会の日

班別外食会